

# F.T.Pile構法 既製コンクリート杭（標準タイプ、各種既製コンクリート杭）

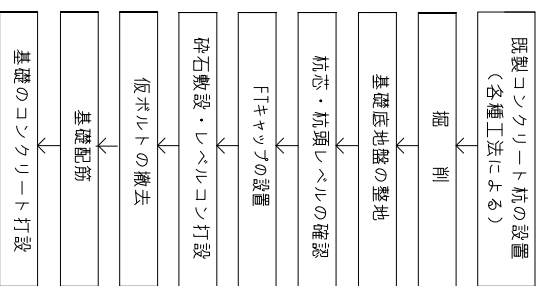
## ■ 構法概要

1. 本構法は、地震時の杭基礎の損傷低減を目的とした杭頭接合方法であり、既製コンクリート杭に用いる。
2. 杭頭を基礎（パイルキャップ）へ50～150mm埋め込み、埋め込み部分において杭外周部とパイルキャップの界面にテーパ状のクリアランスを設ける。
3. 杭頭接合方法は、地震時に杭頭に引抜き力が作用しない箇所に適用する標準タイプと、引抜き力が作用する箇所にも適用できる引抜き対応タイプの2タイプがある。

## ■ 使用材料（適用範囲）

- ・杭： 各種の既製コンクリート杭（PHC杭、SC杭、PRC杭、RC杭 等）
- ・杭径： 300mm～1200mm
- ・コンクリート（基礎（パイルキャップ）部）： 普通コンクリート 設計基準強度：18～60 N/mm<sup>2</sup>（法第37条第一号もしくは第二号に該当するコンクリート）

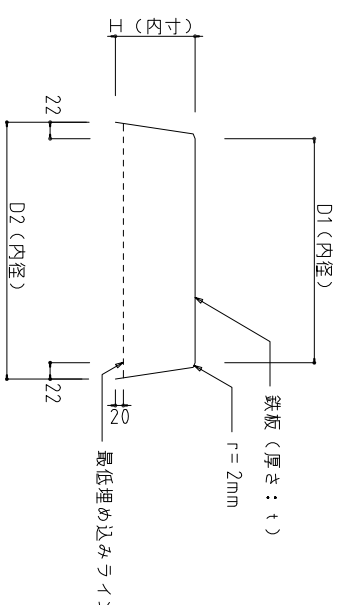
## ■ 施工手順



### \*留意事項

- ・既製コンクリート杭の設置に先立ち、杭頭の端板のボルト孔に泥土が入らないように養生を行う。
- ・SC杭の場合には、杭製作時に端板に仮止め用ボルト孔（埋ネジ）を施しておく。
- ・端板の厚みやボルト孔の規格（例えば、M22）は、パイルメーカーにより異なるので別途確認すること。
- ・杭頭レベルの誤差が品質管理許容差を超えた場合には、工事監理者・設計者と協議のこと。
- ・FTPの刻印があるFTキャップ（テーパ型枠）を使用すること。
- ・FTキャップと端板との間に浮き・隙間が生じないように、端板表面を平滑にし、FTキャップ設置時に密着度を確認する。
- ・FTキャップ内部にレベルコンクリートが流れ込まないように、FTキャップ下端が砕石または地盤に20mm以上（最低埋め込みライオン以上）埋め込まれていることを確認する。
- ・レベルコンクリート打設後、FTキャップ内にレベルコンクリートが流れ込んでいないことを確認し、仮ボルトを撤去する。
- ・FTキャップの上に原則として基礎配筋用のスベーパー等を置かないこと。

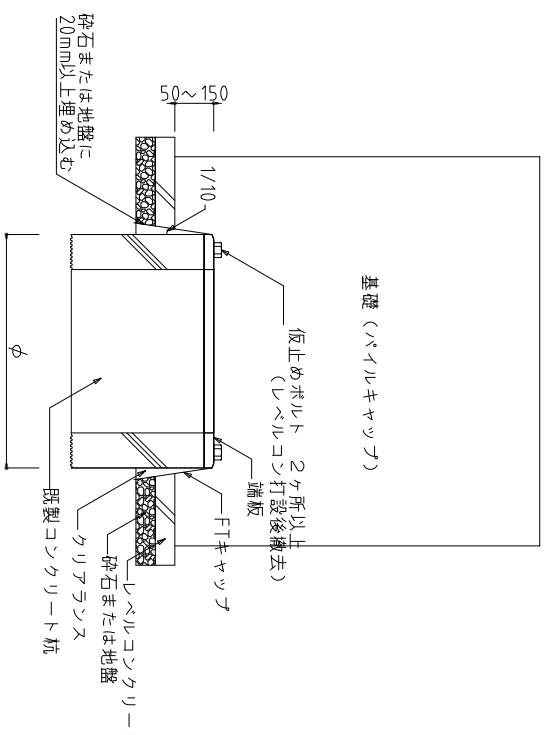
## ■ FTキャップ（テーパ型枠）仕様



杭径：φ	鉄板厚さ：t (mm)	D1(mm)	D2(mm)	H(mm)	W(kg)
300	12	307	345	201	18
350	12	351	395	201	2.3
400	12	401	445	201	2.7
450	12	451	495	201	3.2
500	12	501	545	201	3.8
600	16	601	645	201	7.2
700	16	701	745	201	9.0
800	2.0	801	845	201	13.8
900	2.0	901	945	201	17.4
1000	2.3	1001	1045	201	23.9
1100	3.2	1101	1145	201	38.6
1200	3.2	1201	1245	201	44.3

\*この仕様に適したFTキャップには「FTP」の刻印がある。

## ■ 杭頭部詳細図



図名	図日	設計	設計者	工事名	備考
既製コンクリート杭				F.T.Pile構法 既製杭（標準タイプ、各種既製コンクリート杭）	標準
FTキャップ				F.T.Pile構法 既製杭（標準タイプ、各種既製コンクリート杭）	S.No